



楽しいスモールグループディスカッション

J A D E C 年次学術集会の魅力

第13回 J A D E C 年次学術集会

会長

津村和夫

良い医療を届けるために

新たな薬や検査デバイスの登場、デジタル技術の導入、多職種連携の深化、さらには当事者参画の重要性など、現場を取り巻く環境の変化は驚くほどダイナミックです。同時に、ダイアベティス・糖尿病と共に歩む「一人ひとりの人生」を大切にして、「その人らしい生活」を支えていく医療実践の姿は、今も、そしてこれからも変わることはありません。

J A D E C 年次学術集会は、動と静の両面を持つこの難しい時代の中で、医療者が専門性を磨き、現場の知恵を持ち寄り、より良い

医療を社会に届けるためにチカラを高めることができる場所です。さまざまな職種の医療者が垣根を越えて集い、共に考え、語り合うことを大切にしています。

この学術集会の最大の特徴は、「スモールグループディスカッション」を数多く取り入れて、「対話と交流」を重視している点にあります。2013年の第1回開催以来、このスタイルは一貫して受け継がれてきました。一方通行の講演を聴くだけでなく、参加者同士が顔を合わせて意見を交わし、現場での工夫や悩みを共有することで、新たな気づきや発想が生まれます。そこには、立場や経験年数の違いを超えたフラットな議論があり、「明日からの診療に生かせる本当の学び」があります。さらに、毎年数百人に及ぶ企業関係者も参加し、医療者と共に理想の医療のあり方を考えるプラットフォームとして発展を続けています。産学が協働し、社会と共にダイアベティス・糖尿病医療の未来を描くことは、本集会ならではの魅力です。



メインホールにおける運動セミナー



協力しながら進めるグループ発表



フットケアの実践セミナー



熱心に教育講演を聴講する参加者

**本質を見抜くチカラ
未来への扉をひらく勇氣**

毎年、熱心に議論を交わす参加者の輪、笑顔で語り合う多職種の方、真剣な眼差しで発表に耳を傾ける若手医療者の姿が随所に見られます。各セッションで自然と会話が生まれ、初対面ですぐに打ち解けて、互いの経験を共有する光景が見られるのはとてもうれしいことです。

第13回JADEC年次学術集会は、2026年7月18日(土)・19日(日)の2日間、国立京都国際会館にて開催されます。今年のテーマは「本質を見抜くチカラ 未来への扉をひらく勇氣」。困難を克服するためには、その背景や原因の根幹をなす本質を、迅速かつ正確に見極める能力が求められます。そして、解決策が見えた先では、勇氣を持ってこれを実行せねばなりません。自分を変えて、組織を変えていくためのこのころと技術も必要です。わたしたちは何のために医療を実践するのか。その原点に立ち返りながら、未来への一歩

を踏み出すための知恵と勇氣を共有する場になりたいと考えています。ダイアベティス・糖尿病のある方々の人生に寄り添い、より良い医療と社会を共に創っていくために、ぜひ本学術集会にご参加ください。皆さまと京都の地でお会いできることを、こころより楽しみにしております。

13th JADEC 年次学術集会

本質を見抜くチカラ
未来への扉をひらく勇氣

Diabetes 対話と交流

会期：2026年7月18日(土)
19日(日)
会場：国立京都国際会館
会長：津村 和大 川崎市立川崎病院

EBM チーム 成長 CDE

充実の対話型集会 チーム医療の最前線

主催：JADEC Japan Association for Diabetes Education and Care
公益社団法人 日本糖尿病学会 www.nittokyo.or.jp JADEC 検査

第13回JADEC年次学術集会 開催概要

会期：2026年7月18日(土)～19日(日)
(2026年8月中に一部プログラムをオンデマンド配信)

会場：国立京都国際会館

会長：津村 和大(川崎市立川崎病院)

参加対象：ダイアベティスケアに携わる
医療者・行政職員・企業社員

予定プログラム

- 多彩な教育講演・シンポジウム
- 現場の課題を取り上げた一般演題
- スモールグループディスカッション(10テーマ以上)
- スタートアップセミナー ● 体験プログラム
- CDEミーティング ● CDEL活動報告 ● 研究助成報告 など